

有限会社 柳田製作所

特殊車両パーツの製造・ 組立で培った技術を応用

納期
相談
コスト
相談
メイド
イン
ジャパン
試作可
小ロット

業務 内容

特殊車両と大物製缶製造が
事業の両輪

長年、親会社である特殊車両メーカーと堅固な信頼関係を築いてきた柳田製作所。塵芥車の押し込みプレートやテールゲート等、特殊車両の小物部品の製造、加工から組立までを一手に請け負ってきた。

その技術を他分野でも応用できると確信した同社では、「2本目の柱」となる事業として近年、産業用プラントの大物製缶の製造にも着手。特殊車両を一貫生産できるノウハウを製缶製造にも投入したことで、製缶専門業者にはない付加価値を提供することに成功している。

強み

精度の高い溶接技術で
どんな金属加工も可能に

主力事業である特殊車両パーツ製造においては、創業以来、親会社の依頼を受けてさまざまな改良を試みてきたため、技術とノウハウの蓄積ができています。

例えば溶接。現在、同社には溶接に関する有資格者が19名も在籍しているとい

う。彼らは1mm単位での仕上げ精度を得意とするだけでなく、高度な技術が求められる



1mm単位の精度でつくられた塵芥車部品

ずみの解消にも長けている。その技術が新事業にも活かされており、ひずみがなく均質で、高品質な製缶製造を可能にした。

世に数多くの製缶業者がある中で、工程を切り売りするのではなく、部品加工から溶接、組立、試運転までスピーディに一貫して生産できるのも同社の強みとなっている。

今後の 展望

高度な技術とノウハウで
自社製品開発も視野に

特殊車両の小物部品と産業用プラントの大物製缶で高めた技術力や経験値をもとに「最終的には自社製品の開発が目標」と話す柳田専務。

同社は高品質・短納期・多品種・少ロットで顧客のニーズに応える企業体質を強みに、既存の業務にまい進しながらも常に情報収集や新規事業の模索に余念がない。

例えば、その一つとして、消防車や環境関連機器へのニーズの高まりを受け、同社が特殊車両技術で長年積み重ねた技術力やノウハウを活かした製品を手掛ける予定だという。

連携 強化

チームプレーで効率アップと
多能工化を図る

顧客の多様なニーズに応えるには、あらゆる工程を一貫通できる体制はもちろん、部署間の連携強化も欠かせない。柳田製作所では一つの部署に作業が集中しないようにチームでの生産を徹底することで作業効率の向上と共に、技術やノウハウの共有化を促進する多能工化にもつなげている。

COMPANY PROFILE

有限会社 柳田製作所

大阪
24

当社の 歴史

当社は今から30年前、特殊車両メーカーの子会社として、私の祖父と父とが起ちました。親会社からの「こんな製品、つくれるか?」には必ず「イエス」。その後、部品製造から車両の組立まで一手に請け負い始めたのをきっかけに、敷地も人員も拡大させていったと聞いています。今後も現状に満足することなく、常にお客様のニーズや商機を探り、発展続けたいと考えています。

今後もものづくり目線に立って、自主的な
“市場創造型” 企業を目指します。

専務取締役 柳田 大介さん



■主な事業内容

特殊車両の小物部品の製造・組立、産業用プラント・大物製缶品の製造等

■主な取引先(納入先)

特殊車両メーカー、産業用プラントメーカー等

住 所 / 〒581-0037

八尾市太田4-44-45

TEL / 072-948-4381

FAX / 072-948-9909

創 業 / 昭和51年9月

設 立 / 昭和53年4月

資本金 / 300万円

従業員 / 48名

<http://www.yanagida-ss.com>